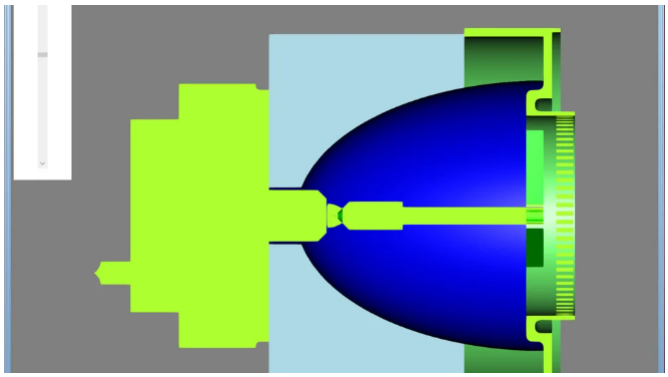
株式会社ノーツアンドクロス

TracePro 26.4：自動化とワークフローのアップデート



2026年11月16日 午前10:17:38

読了時間の目安：1分

26.4 がリリースされました。今回のリリースでは、自動プロパティインポートワークフローの制御機能が強化されたほか、モデリング、最適化、ドキュメント作成、サポートといった日常的なタスクの各種機能が洗練されています。また、断面ビュー（Section View）や拡張された Scheme 自動化など、TracePro 26.3 で導入された主要な機能・性能をさらに発展させています。

自動化プロパティワークフローの制御向上

TracePro 26.4 では、プロパティの上書き確認を処理するための2つの Scheme コマンドが新たに導入されました。

tracepro:set-db-confirm-overwrite-response:.tracepro` ファイルを開く際やプロパティをインポートする際に、TracePro が使用すべき上書き応答を設定します。

tracepro:clear-db-confirm-overwrite-response　　:その応答設定をクリアし、デフォルトの挙動に戻します。

これらのコマンドにより、モデルの読み込みやプロパティデータのインポートを行う、繰り返し実行するワークフローやバッチ処理における制御性が向上します。

データおよび最適化ワークフローの洗練

今回のリリースでは、CODE V モデルからのプライベートガラスデータのインポートが改善され、インタラクティブオプティマイザーによる相対設計変数の処理が強化されました。また、プロパティレポートを表示した状態でイメージソースを編集する際の安定性も向上しています。

これらのアップデートにより、ツール間で光学データを移行したり、ソース定義を調整したり、最適化設定を反復したりする際のワークフローにおける中断を軽減します。

断面ビュー（Section View）および近年の TracePro の進化の継承

TracePro 26.3 では、モデルのカットモデル（断面）を表示する「断面ビュー（Section View）」が導入されました。エンジニアは、XY、XZ、または YZ 座標平面上でモデルに断面を入れることができ、切断面をジオメトリに沿って移動させ、透明度を適用し、直交ビューにスナップさせ、モデル全体にズームすることが可能です。

また同リリースでは、他の Scheme コマンドによる変更後にソースツリーを更新する必要があるスクリプト処理をサポートするため、Scheme コマンド `view:reload-source-tree` が追加されました。

TracePro 26.4 では、断面ビュー専用のヘルプページが追加され、ジオメトリコマンドの説明が刷新されたほか、テクニカルサポート情報が更新されており、これらの機能を実際の設計・製造業務でより活用しやすくなっています。

TracePro 26.4 の入手

TracePro 26.4 は現行のリリース版です。有効な保守・サポート契約をお持ちのお客様は、TracePro カレントリリース（Current Release）ページからインストーラーのダウンロードおよび完全なリビジョン履歴の確認が可能です。